

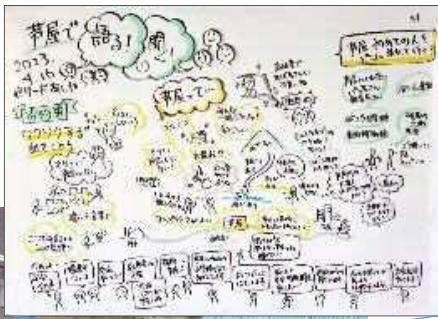
市民参画・協働の取組事例

よりよい市民参画・協働を目指す上では、新たな試みを含めた試行錯誤の繰り返しが必要であるという視点に基づき、事例を積み重ね、共有していきます。

取組名	打出教育文化センターと打出公園の一体的実施	
取組内容	打出教育文化センターの役割や、地域の歴史を学んで、地域の魅力を高めるために、何が必要なのか、設備や使い方について意見を出し合い、実現につなげた。今後のあらゆる世代にとっての居場所として、利用できるようにする。	
 	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> 打出教育文化センターの役割を、理解いただいた上で、一体的実施について、意見が出たこと。 打出公園と日本庭園の使い方やマナーについて、意見交換ができたこと。 武庫川女子大学との連携で、学生ならではの発想力を活かした提案をいただいたこと。 <p>学んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> 開館日・開館時間を見直したことにより、実際に、幅広い利用者層に、より多く利用されるようになったこと。 予算の関係で、できることできないことを理解いただいて、色々な提案をいただけること。 イベントを開催できる市民力が、地域の賑わいに繋がること。 	

取組名	公共空間を活用した賑わい創出事業	
取組内容	地域住民や事業者、学生、行政など、多様な主体が参画するエリアプラットフォームを構築し、まちの未来ビジョンの策定を進める。	
	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会だけでなく、事業者や学生、取組に関心のある方も参画し、気軽に話し合いができていること。 普段は自由に使えない道路空間を活用することで、非日常感を演出できること。 子供のやりたいことを大人が手伝いながら社会実験をすることで、様々な年代の交流が生まれていること。 <p>学んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> 立場が違うと意見・考え方もあるが、お互いにしっかりと話を聞くことで共感し合い、1つの方向にまとまることができたこと。 子どもが中心になることで、みんなが笑顔で楽しく取り組むことができたこと。 普段から多くの情報を発信することで、取組への共感及び応援も聞くようになったこと。 	

取組名	こえる場！
取組内容	地域活動を行っている企業・団体等と芦屋市がつながったり、企業・団体間同士でつながることで、それぞの持つ強みや資源を活かしながら、地域の可能性を発見したり、地域の課題解決等に取り組み、より暮らしやすいまちの実現を目指す。
	<p> </p> <p> 形:芦屋のAと六甲山、笑顔の口やつながり、ひろがりが連鎖する様子をイメージ 色:芦屋の海・山、芦屋愛、未来と多様な主体の参画をイメージ</p> <p> </p>
	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で対面での活動が制限される中、効果的な運営体制の整備や情報発信、オンラインの活用など、可能な範囲での活動を検討・実施し、つながりづけることができたこと。 令和5年度に、約4年ぶりの参集型交流会を実施した際には多くの企業・団体等の参加があり、話が終わらないほどの盛り上がりを見せ、活力を感じると共に協働による可能性の広がりを感じたこと。 <p>学んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働のプラットフォームとして、行政とのつながりだけではなく、参画企業・団体間の協働促進にもつなげていく必要があること。 多様な主体が持つ社会資源やノウハウ・アイデア等を活用し分野を超えて連携・協働することで、より暮らしやすいまちの実現へつなげていくこと。

取組名	みんなのつどい場
取組内容	芦屋に住んでいる人、働いている人、学んでいる人、活動している人、芦屋に関わっている人たちが集まり、自分のことを語る、日常を語る、だれかとつながる、みんなの話を聞く、みんなでワイワイできる居場所づくりを目的とする。
	<p></p> <p></p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> 色々な立場の人が集い、様々な観点から意見を出し合える場となっていること。 スペシャル版として「ソーシャルグッドなつどい場」、派生した取組として「インターナショナルデー」、市内他施設での「テーマ別のつどい場」につながるなど、広がりがもてる取り組みとなっていること。 <p>学んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> 気軽に話ができる場に、聞くだけでも参加したいと思える空間ができること。 色々な立場の人どうしても、別の事業と一緒に立ち上げることができたこと。 事業の広がりを見せていくものの、単発に終わってしまうことが多く、継続的に実施できるような支援が必要であること。